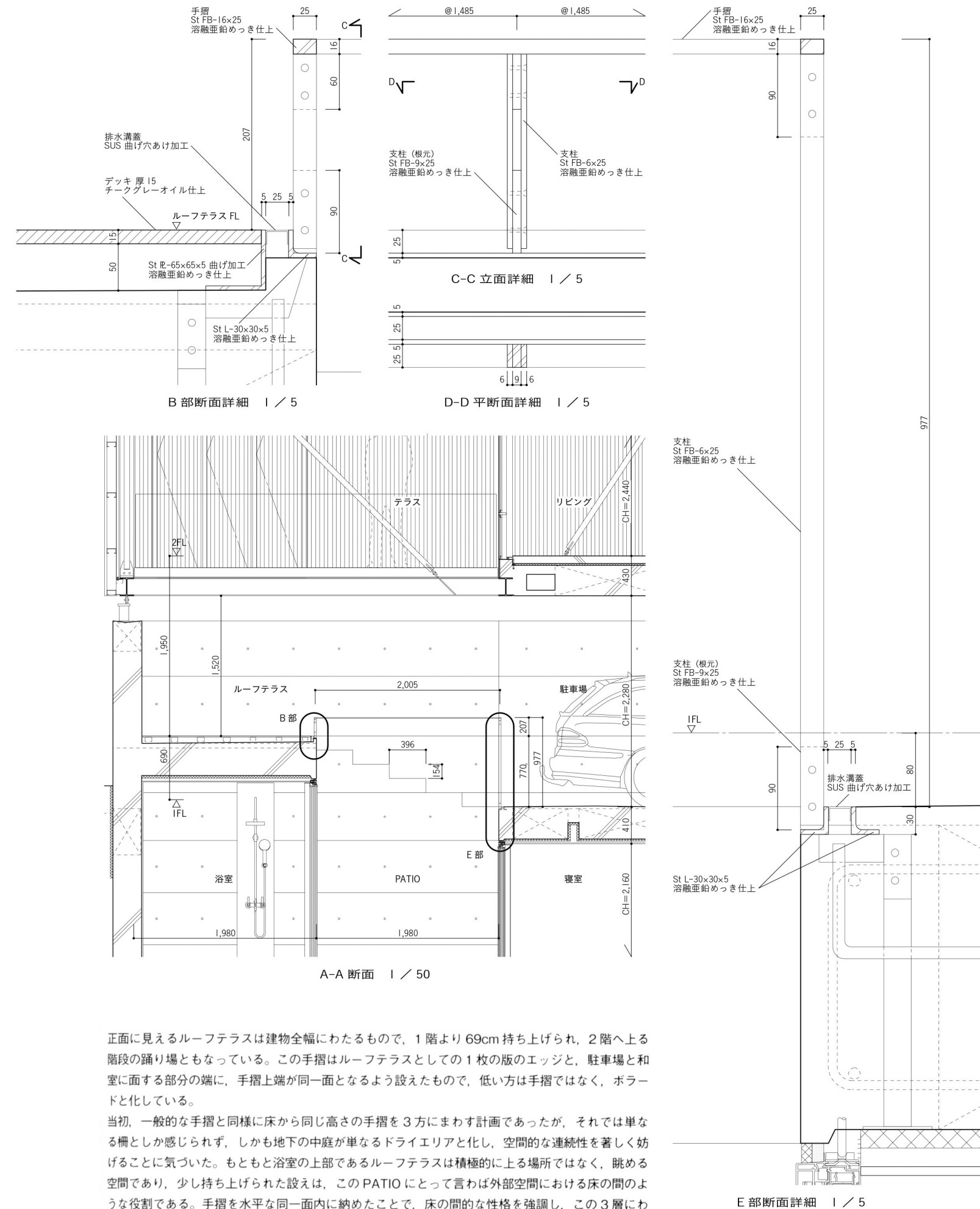
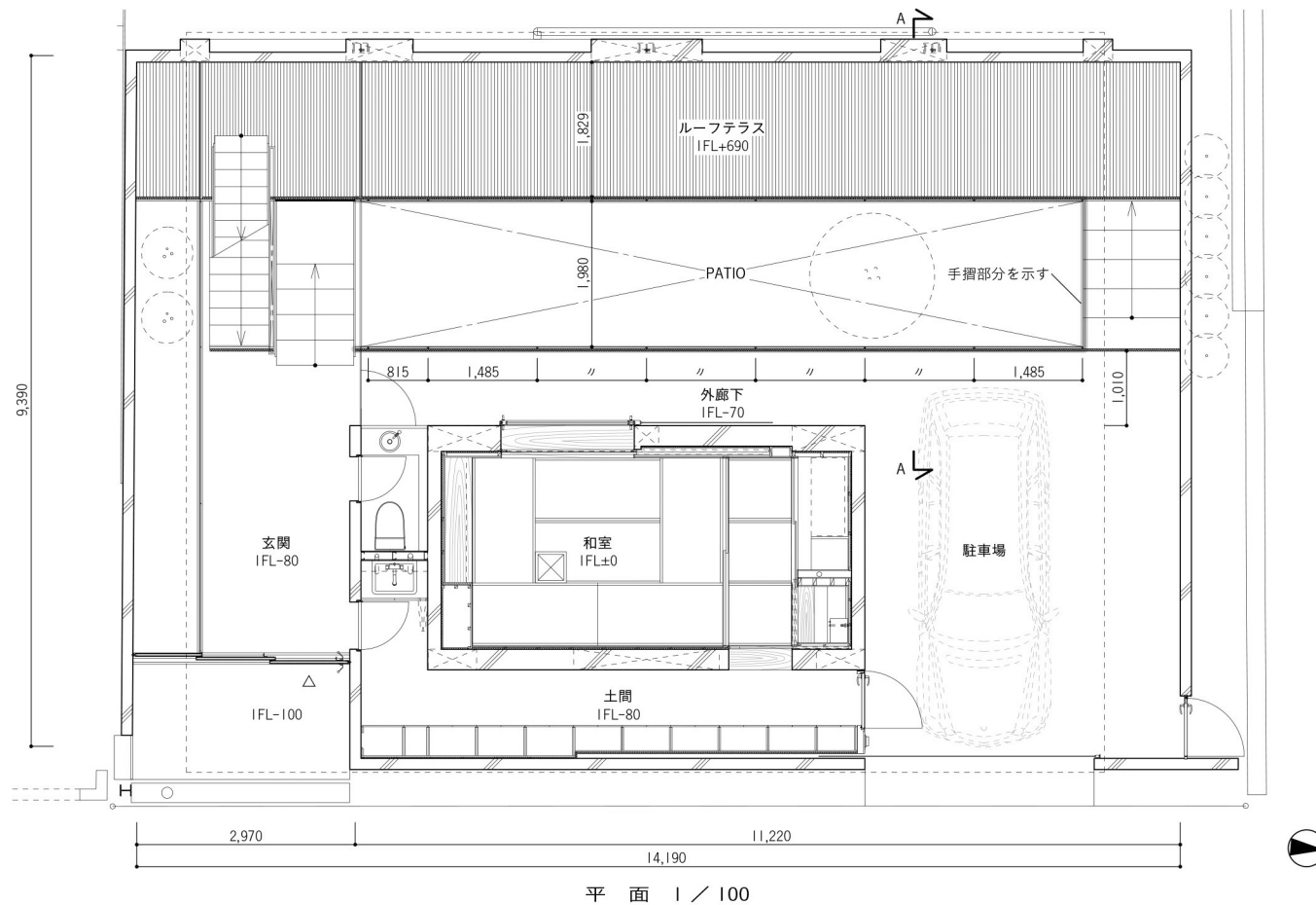


PATIO を空間化する同一面の手摺

PATIO 矢板建築設計研究所

構造設計/構造設計社 施工/日南鉄構 手摺製作/日南鉄構 竣工/2011年11月 所在/東京都 撮影/小川重雄



正面に見えるルーフトラスは建物全幅にわたるもので、1階より69cm持ち上げられ、2階へ上る階段の踊り場ともなっている。この手摺はルーフトラスとしての1枚の版のエッジと、駐車場と和室に面する部分の端に、手摺上端が同一面となるよう設えたもので、低い方は手摺ではなく、ポラードと化している。

当初、一般的な手摺と同様に床から同じ高さの手摺を3方にまわす計画であったが、それでは単なる柵としか感じられず、しかも地下の中庭が単なるドライエリアと化し、空間的な連続性を著しく妨げることに気づいた。もともと浴室の上部であるルーフトラスは積極的に上る場所ではなく、眺める空間であり、少し持ち上げられた設えは、このPATIOにとって言えば外部空間における床の間のような役割である。手摺を水平な同一面内に納めたことで、床の間的な性格を強調し、この3層にわたるPATIOを一体の空間とすることができたと思う。

(矢板久明)